

NID News

Latest News
Nagaoka Institute of Design

June 2012 Vol. **012**



卒業生の仕事

下田彩水 「デザイン×書」

今号の表紙

NID News 012号の表紙は下田彩水さんに書いていただきました。
コンセプト：夏をイメージして制作しました。背景は波のイメージです。文字は一見わかりにくいですがNIDNEWSと書いてありまして、小舟をイメージしています。
少し荒々しい波もNIDの船は渡る！そんなイメージです。



下田 彩水 (シモダ サイスイ)

書家/書道講師

2005年産業デザイン学科視覚デザインコース (現: 視覚デザイン学科) 卒業

6歳より書に親しみ、学生時代は新潟県知事賞などの賞を受賞。

高校卒業後、デザインの専門学校である長岡造形大学へ進学し幅広いデザインの基礎やグラフィック、広告を学ぶ。

NID卒業後は書道師範を取得し書道教室の講師として指導をする。現在、講師の傍ら題字やロゴなど書に関わる文字デザインやアート書を制作し、書の可能性を追いかけている。

URL <http://www.saisui-s.jp>

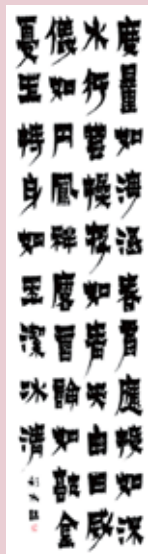


モノクロの世界に^{いろど}彩りを

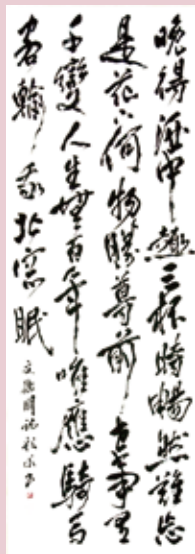
書道家の雅号は師匠から与えられることが多く、私の場合は師である祖母から祖母の雅号である「志水」の「水」を一字いただきました。「彩」は“モノクロの世界に^{いろど}彩り”をという想いでつけました。

私の思う「デザイン×書」は書としての白と黒の芸術性にデザインとしての見やすさ・読みやすさが含まれるものだと思います。

デザイン書道を制作する時は音楽を聴きながら、制作していることが多いです。音が無い状態よりも音楽がかかっているほうが集中できますし、制作する作品のイメージに合わせて、音楽を変えたりしています。現代の家は洋室が多く、古典書道の作品が合うお部屋というのが減ってきていますので、インテリアとしての書は、洋室にも合う書を作りたいと思っています。



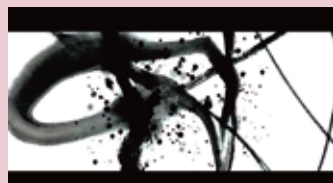
金農 (2009)



文徴明詩 (2009)



ヴォイス・パーカッションニスト、Waccha -和茶- (わっちゃ)のPV作品
PVで流れるアーティスト名、タイトル、文字11個と背景で使われる墨絵を担当 (2011)



広告をやりたい！

書道は幼い頃から習っていたのですが、小学生の時はアパレルデザイナーかイラストレーターになりたいと思っていました。その後、中学生の時に見た公共広告機構のCMに影響を受けて、広告に興味を持ちました。NID在学中は、広告やタイポグラフィを中心に勉強し、卒業の時には幼い頃から勉強してきた書道とNIDで学んだデザインを活かせないかと思い、デザイン書道をしようと思いました。学生の時制作が大変で、睡眠時間も少なかったというのが思い出されます。ただ、どうしても納得できる作品を作りたくて、つつい睡眠時間を削ったりもしましたが、楽しかったですね。

「学生時代にがんばらないと就職してもがんばれるわけない」という授業での先生の言葉を胸に、学生時代はがんばっていました。そういう授業での教を大切にしているので、私も友人もがんばっているのだと思います。NIDの授業で学んだことは、デッサンはもちろん、構図のとり方、配置、余白のとり方、色彩の勉強、タイポグラフィ、広告の勉強など、全てが役に立っています。デザインされたキャンパスがすごく好きでした。外観であったり、内観であったり、あの環境で学べたことも良い勉強になりました。今やっているデザイン書道のお仕事の中には、NIDの先生から紹介していただいたものもありますし、最近制作したホームページは東京でデザイナーをしている友達に制作をお願いしました。卒業してからも先生や友達とつながりがあって、すごくありがたいです。それと卒業してからも、定期的に先生や卒業生・在學生と集まってみんなの活躍を聞いたり、刺激を受けています。

JIN ROCK FESTIVAL 2009 の
オフィシャルTシャツロゴ (2009)



弁天ジャスミン - 茉莉花 - の店舗看板 (2011)



地上デジタル放送に伴い、新潟総合テレビがNSTへ名称統合する際の広告の題字を担当 (2010)

これからの夢

現在は書道教室での指導や展覧会への出品、デザイン書道の活動をしています。デザイン書道の仕事では、新潟県の酒造会社のお酒のラベル文字や、webの文字制作などを行っています。

プロのミュージシャンのプロモーションビデオ制作に携わったのは楽しい制作でしたね。音楽を聴きながらイメージを膨らまし、たくさん書きました。音楽に合わせて動く文字は、まるで魂が宿ったようでとても嬉しかったです。今後も、映像とのコラボレーションのようなカタチのお仕事もしていきたいです。

あとは、パフォーマンス書道で大きい作品を制作してみたいですし、海外の活動なども興味があります。やれることは何でもして、悔いのない活動をしたいと思っています。

想 (2012)



Drop.2 (2011)



花より花らしく展 - SAI - (2012)



ゼミの紹介

視覚デザイン学科
マンガコース
はらこゼミ紹介



【活動内容】

マンガにはコミックとよばれるストーリーマンガに限らず、一コマ、四コママンガなど多くの発表形式があります。マンガの歴史を通じて世界の優れたマンガに触れ、マンガとは何だろうと、マンガの本質を考えることがマンガ制作の第一歩となります。ゼミ生たちはストーリーマンガの制作のみに捉われず、幅広い発想と、平面・立体を問わない自由な形式でマンガの研究をしています。

【研究テーマ例】

- 少年マンガ雑誌の制作とブランディング
- アメリカンコミックとアニメーションの制作
- 3D 絵本の制作
- 巻物形式のマンガ制作など

【大学でマンガを学ぶことは…】

大学でのマンガ教育は単にストーリーマンガ制作の為の技術指導だけでなく、マンガを描く上で不可欠な幅広い一般教養を身に付けることにあります。マンガの歴史、シナリオ制作などの授業の他、デザイン、デジタル、写真など他コースの授業も受けることにより視野と発想力を広げてマンガ制作に臨めることもNIDの大きな特色です。

はらこ つとむ

視覚デザイン学科 教授
専門分野/
マンガ全般
イラストレーション
現在の研究課題/
チャールズ・ワーグマンとその時代の研究

ゼミ生
“本音”
トーク

Q:なぜ
“はらこゼミ”を
選択したか?

自分がマンガから
受けた感動を他の人
にも伝えたい。

将来マンガ家を
めざしているのです。

絵の上達だけでなく
ストーリーも追求したい。

「子どもであること」の
ベテラン！ウフフって笑う。

マンガについて
いつも楽しそうに話す。

Q: はらこ先生は
どんな人

マンガや映画の
知識が豊富でおもしろい
話をしてくれます。
ただ課題を
忘れると…

Q: 就職について

マンガ一本でいきたい。
出版社に原稿を
持ち込んでいます。

もしすぐにマンガ家になれなかったとしても、他の仕事をしながらチャレンジし続けたい。

Q: ゼミの仲間について

一見もの静かに見えて、実はアツいものをもった人達の集まりかなー。

友達やライバルというよりも自分自身を見ている感覚。互いの作品を見ることで自分の作品の長所や足りないところを気付かせてくれる。

“高校生に伝えたいこと”

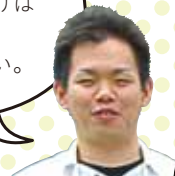
マンガを学びはじめて、マンガを描くには本当にマンガが好きでなければ描き続けることはできないと感じた。逆にマンガが好きならば、これほど楽しいゼミはない。



クロッキー大事！マンガを描くにしてもデッサン力は大切だと思います。



高校時代にもっと絵を描いておけばよかった。時間が足りない。



高校生の頃「マンガ描きたいけど学ぶものじゃないのでは？」と思っていたので、大学に来る気はありませんでした。

でも実際入ってみると、やっぱり自分がいかに若くて未熟だったのか思い知られることが多く「あー入って良かったなー」と今は本当に思っています。



迷っている高校生の方がいたら一度見学をオススメします。やっぱり楽しいと思えることが大事だと思います。自分に合った環境が一番!!

TOPICS

2012 5月 日本ジュエリーアート展 4名入選!

第27回公募2012日本ジュエリーアート展(公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会主催)で、**園田隆寛さん**(大学院造形研究科2年)、**目黒愛子さん**(美術・工芸学科4年)、**山田いぶきさん**(美術・工芸学科4年)、**宇佐美亮さん**(工房職員)の4名が入選を果たしました。プロ・アマ垣根なしの同コンペで快挙です。

2012 6月 新潟手拭い 6周年記念展@新潟空港

越後亀紺屋 藤岡染工場さん(新潟県阿賀野市)とのコラボレーション企画、テキスタイルコースの学生たちによる「新潟手拭い」が今年で6周年を迎え、それを記念してこれまでにデザインされた全作品が、新潟空港で一室に展示されました。この6年間で、49名の学生が参加し、デザインされた作品数は52点にのびります。



2012 6月 全国学生卒業設計コンクール 銅賞受賞!

JIA全国学生卒業設計コンクール2012(社団法人日本建築家協会主催)で、新潟県代表として選出された**川村千絵さん**(建築・環境デザイン学科)の作品が、みごと銅賞を受賞しました。



©日本建築家協会

CHECK!

予選となった第14回新潟県内大学卒業設計コンクール2012では、金賞を受賞した川村さんに加え、**山本雄介さん**(建築・環境デザイン学科)が銅賞を受賞しています。NIDの金賞受賞は今回で4年連続という快挙です。

※両名は2012年3月に卒業しました。

2012 6月 新潟アートディレクターズクラブ2012 準グランプリ受賞!

新潟アートディレクターズクラブ2012審査会で、**吉川賢一郎准教授**(視覚デザイン学科)の作品が準グランプリを受賞しました。また同審査会では、現在デザイナーとして活躍中の卒業生5名も各賞を受賞しました。



2012 6月 県展 振興賞受賞!

第67回新潟県美術展覧会「県展」彫刻部門で、**勝間田嘉弘さん**(美術・工芸学科4年)が新潟日報美術振興賞を受賞しました。また、同じく彫刻部門で**大野はるかさん**(美術・工芸学科4年)が、洋画部門で**小杉美紀子さん**(美術・工芸学科4年)と**和久井礼子さん**(美術・工芸学科3年)が入選を果たしました。昨年の県展では、洋画部門で本学学生が最高賞を受賞しています。

2012 6月 ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ 金賞受賞!

第23回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ イデオロギーポスター部門で、**御法川哲郎准教授**(視覚デザイン学科)の作品が金賞を受賞しました。世界一です!

8ページの特集へGO!

教職課程修了第一期生、来春誕生!

来春、NIDでは第一期生となる教職課程修了者が誕生する予定です。教職課程のクライマックスは何と言っても**教育実習**。4年生の履修者は、母校を中心に随時受け入れていただきながら、実習生としてがんばっています。また教職課程設置以前の卒業生たちも、高校の非常勤講師や専門学校講師、そしてNIDの非常勤講師として現在活躍中です。



CHECK!

NIDが主催する、小学生を対象とした「こどもものづくり大学校」に、教職課程を履修中の学生がサポートスタッフとして参加しています。NIDでは教育現場を体験できる機会を学生たちに積極的に提供しています。

新しい「歌い継ぐカタチ」 混声三部合唱組曲「阿賀野川」 20周年プロジェクト合唱×ROCK「阿賀野川」

Swallowtail*Queenbee and Minami (スワローテイルクィンビーアンドミナミ)

阿賀 ROCK

卒業生
の活動

合唱×ROCK「阿賀野川」とは

合唱組曲「阿賀野川」はミナガワトオルのふるさと新潟県東蒲原郡阿賀町(旧三川村)で20年以上の間、歌い継がれている合唱曲。昭和42年、村を襲った羽越水害をテーマとし、美しい情景描写や村人のたくましい姿がドキュメンタリータッチで描かれた、壮大な組曲となっている。(作詩:山本和夫、作曲:岩河三郎)
昨年「阿賀野川」誕生20周年という節目を迎えるにあたり、羽越水害の記憶を風化させないためにも、この合唱曲をリメイクするプロジェクトが動き出した。中学時代に「阿賀野川」を歌った経験を持つミナガワトオルが中心となり、自身のバンドに演歌歌手を迎え入れ、郷土愛をむき出しにして制作は進められた。未だかつて誰も聴いたことなかった、合唱曲のROCKサウンドアレンジ。生まれ変わった「阿賀野川」には多くの可能性が秘められている。



↑長岡市「音楽食堂」でのライブ



Swallowtail*Queenbee and Minami

沖縄の伝統楽器「三線」を取り入れた女性ボーカルによるロックバンド、Swallowtail*Queenbee。斬新なスタイルと哀愁あるその歌声は、県内唯一無二である。合唱×ROCK「阿賀野川」を制作するため、新潟出身の演歌歌手「葉月みなみ」との異色コラボレーションが実現した。



Q: 合唱×ROCK「阿賀野川」について

ミナガワトオル(以下M):一昨年、地元の中学で歌われている「阿賀野川」を歌い継ぐ会」の新聞記事を見て、改めて「もう19年目なんだ」と実感し、20周年に向けて、節目を迎えた「阿賀野川」で何かカタチに残るものにできないかなと思いました。中学時代歌っている人の中には嫌々歌っている人もいたかもしれないけれど、ボクは大学に入学した後もCDをアパートに持って行って聴いたりするぐらい「阿賀野川」が好きで、阿賀町(旧三川村)を盛り上げるためにも、新しい「歌い継ぐカタチ」をやってみたかった。もともと、バンドを組んでいたの、そのバンドメンバーと一緒につくれないかなと思い、まず、アレンジを全部ボク一人で考えて、できあがったものを皆に聴いてもらいました。

Sae(以下S):いいから聴けみたいな(笑)

M:合唱をROCKでやるのが新しい試みで、いままでになかったと思うんですね。それが2010年の12月くらい。そして、今年の7月11日にODが発売されます。メンバーもやりがいを感じたり、おもしろそうだなと思ってくれたみたいだし、自分達の表現のひとつとして、ボクがキッカケをつくって、取り組んでくれればなあ。まあ、もうやってもらうつもりでしたけど(笑)

M:ボクがやろうと思った時に一番聴いてもらいたかったのは地元中学の卒業生たちなんです。合唱×ROCK「阿賀野川」のホームページを立ち上げた時に、卒業生や学校の先生、羽越水害に遭われた方、合唱団の方、いろんな方にインタビューしまし

た。卒業してから会ってなかった人にすごい久しぶりに会いましたね。そういう再会とかが、うれしかったです。あと、こういうことをしないと話を聞けないような方ともお話ができました。例えば元校長さんであったり、中学校の校長先生、教頭先生、教育委員会の方、作詩の山本先生は亡くなっているんですが、福井県までお墓参りに行って、先生を慕っている方から話を聞いたり、作曲の岩河先生には手紙を出して、好意的な返事をいただいたり、たくさんの出会いがありました。

今回の活動も賛成の声だけではなかったんですよ。それも全部受け入れる覚悟で、アレンジを行いましたし、それだけしっかりとしたものを制作したいと思っていました。

S:もともと良い曲だから本当に良

いアルバムに仕上がったよね。

M:もともとは合唱曲ですが、合唱とは別の物として聴いてもらいたいです。合唱曲と比べるとではなく、いろんな「阿賀野川」があって良いんじゃないかと思っているんですよ。本当に良い曲なのに埋もれてしまっているというのが残念で、むかし村のために作った曲が、こんな良いものがあるのに、もったいないという気持ちがあります。

この歌は羽越水害から立ち上がった歌なんです。東日本大震災で被災された方への応援歌としても聴いていただきたいです。また、この歌は阿賀町の文化や歴史も曲を通じて、学んでもらえます。羽越水害を知らない若い世代にも広くJ-POPのようなカタチで聴いてもらえるとうれしいです。

Q:なぜNIDへ?

S: 私がなんでNIDに決めたのかは、絵を描くことが好き、細かい作業が好き、編み物や物を作るのが好き、これは地元のNIDに行くしかない!と。

M: ボクも絵を描くのが好きで美術も好きでした。バレーボール部だったんですが、高校の美術の先生から部活に来いと誘われましたね。そんな気はなかったんですが、バレーボール部を引退してから3年生で美術部に入部しました。でも、その時はまだNIDには決めていませんでしたが、やっぱり、専門学校じゃなく、大学が良かった。大学に憧れがありました。NIDを卒業してからはもっと勉強すれば良かったなって思っています。勉強以外でも、ボクが3,4年生の

頃に長岡の大手通り・すずらん通りで定期的にフリーマーケットを行っていて、そこでイラストをステッカーにしたグッズを販売していました。周りは古着とか雑貨の販売だったけど、イラストとかをしている人はいなくて、中高生、特に一部の中学生の女の子を中心に、自分で言うのもあれですけど、ブームになりましたよ(笑) **大学の授業以外でも、自分の描いたイラストを通して、社会勉強できましたね。**

S: ミナガワくん楽しそうだね。私何してたんですかね。部活が良い思い出ですね。なんでバスケット部に入ったかという、先輩達がやんちゃで、ここに入ったら楽しそう!と思って入部して、実際マネージャー業好きじゃな

いけど、マネージャーやってました。それで課題を皆で徹夜してやったりとか。

S: 授業の思い出では、実際に現場に足を運んで設計しなければいけないっていうのを授業で聞いて、それは今でも心に残っていますね。

M: あと大学の校舎おしゃれだったよね。

S: 大学にいただけでおしゃれみたいな。ランドスケープもおしゃれだったよね。

M: アトリエ棟の屋根が曲線だったりとか。何につけても、おしゃれでかっこ良かった。今でもたまにNIDに行くと、やっぱりおしゃれだな~と思いますね。

S: 環境良かったよね。知らないうちにデザインされた校舎に影

響を受けていたかもしれない。私たちが通っていた頃より、今行くと当時より周りの木々が成長していて、印象が違うんですよね。あと、いろんな方面からものづくり、デザインをしたいって学生が来るから、よりそういったのが刺激になってたし、やりたいことは全部やれる環境だった気がします。

↓新潟のライブハウス「クラブリバースト」でのライブ



咲花温泉 翠玉の湯 佐取館「旬の山菜を楽しむ集い2012」↑リハーサル中の様子 音響のチェックにも余念がありません

Q:スワローテイルクインビーを結成したきっかけは?

S: 私とミナガワくんは大学祭に出演するために、前身バンドを結成したのがキッカケでした。ミナガワくんは総合音楽会※に所属していたのですが、私は総合音楽会には所属していませんでした。バスケット部でしたから。

M: 友達と一緒にいったカラオケでSaeの歌を聴いて、うまいなと思って声をかけて、本当は大学祭だけで終わるつもりだったんですけど新潟でのライブが決まったりして卒業しても続けて今に至っています。皆それぞれ仕事をしながら、住んでいる場所も休みもバラバラなので練習の調整も大変ですね。

S: 活動が思うようにすすまなかったり、ライブも皆の日程が合わなくてなかなかできないとか、良い調子で行けないバンド

でした。でも音楽を通じて知り合ったメンバーと今もこうやって音楽を続けていられることを幸せに思います。

M: そういう中では、この合唱×ROCK「阿賀野川」は凝縮された活動になっていますね。

S: 目標がやっぱり定まっているのが大きいと思います。バンドをはじめた当時は、歌を聴かせたいとか、自己表現したいという活動だったけど、今は変わってきて、流れている音楽に足を止めて、聴いてくれた人が楽しい気分になってもらいたいと思うようになりました。音楽ってやっぱり生活には必要なもので、聴いてくれる人の生活の一部になれたらと思います。

M: このバンドはSaeの歌が必要なバンドで、Saeの歌をどう

活かすかが大事なんです。昔は自分の好きなように演奏していたけど、今はボーカルが一番歌いやすいようにと自然になりました。二人とも考えが大人になりましたね。今はやれる範囲でやっぴこうよというスタンス。

S: あと、その空間を豊かにする音楽をやりたいです。食事やお酒の場の雰囲気作りや、自然の中で友達や家族とワイワイもいいですね。

M: ボクとしてはSaeが歌いやすい環境を作ってあげたい。合唱×ROCK「阿賀野川」にしても、Saeや葉月みなみの歌でなければできない仕上がりになってます。二人に歌ってもらえて本当に良かったと思います。

※総合音楽会:バンド活動を中心に、大学祭やイベントなどに参加するNIDのサークル



2012年7月11日(水)
CD「阿賀野川」発売!

収録曲:全5曲

1. 阿賀の里
2. ふるさとの將軍杉
3. 羽越え大災害
4. 悲歌
5. 光にむかって

<http://www.agarrock.com/>



Sae (大森さえ子)

新潟県長岡市出身
2001年環境デザイン学科
空間デザインコース(現:建築・環境デザイン学科)卒業



ミナガワトル (皆川徹)

新潟県東蒲原郡阿賀町出身
2001年産業デザイン学科
視覚デザインコース(現:視覚デザイン学科)卒業



「TSUNAMI」2011年

**Q. ワルシャワ国際ポスター
ビエンナーレとは、
どのようなコンクールなの
ですか？**

ポーランドの首都ワルシャワで開催される、ポスターの国際コンクールです。ポスターの国際コンクールとして1966年に世界で初めて開催されました。世界中から二千数百点の応募があり、数あるポスタービエンナーレ（2年に1回開催されるポスターコンクール）の中でも誰もが評価を得たいと目標にする場です。

**Q. なぜこのポスターを制作
しようと思ったのですか？**

これは2011年に起きた巨大地震の際の津波を表現しています。これまで地震ポスターのプロジェクに参加しており、地震に関するポスターをいくつか制作してきました。2011年の巨大地震による物質的被害や精神的被害は想像を絶するもので、これを自分のやり方でなんとか記録に残さねばならないと激しく思いました。記録というのは数値的なものではなく、悲しみや無力感などの感情を含むものです。

**Q. 制作する上で特にこだわった
点は何ですか？**

このポスター制作の動機は自分個人の感情に端を発していますが、被災された方々を始めとして日本人全体に沸き起こったと思われる感情を表現しようと努めました。それを自分にできる表現で、なるべく強く訴えかけるように心がけました。

**Q. これからデザインを学びたい
若い人に一言お願いします。**

デザインは美しい色や形を生み出して人に提供します。ただその前に、そもそも自分は何を訴えかけるのかを考えることがとても重要です。そのためには、自分の内面も社会の出来事もどちらも丁寧に見つめる必要があります。

Prize

**第23回
ワルシャワ国際ポスター
ビエンナーレ金賞受賞**

1966年に始まった世界で最も古いポスターコンクールであるワルシャワ国際ポスタービエンナーレにおいて御法川哲郎准教授（視覚デザイン学科）の作品「TSUNAMI」がカテゴリー A（イデオロギーポスター部門）で金賞を受賞しました。



御法川 哲郎

（ミノリカワ テツロウ）
視覚デザイン学科 准教授
専門分野/イラストレーション
展示会場にて作品と共に撮影



会場：Wilanów Muzeum Plakatu